

小学校・第2学年・生活科・「おいしく育てね わたしのやさい」①

活動のねらい

野菜を育てる活動を通して、育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって栽培することができ、それらは成長していることに気付くとともに、おいしい野菜を収穫しようとする。

野菜を栽培する

ICT端末活用のポイント

野菜を育てる活動を振り返る際に、ICT端末を活用して、育てている野菜の成長の様子などを振り返り、変化や成長の様子を時系列で捉えやすくするとともに、自分の栽培活動を自覚できるようにする。

野菜の成長の様子を撮影する

事例の概要

本事例は、児童が野菜の変化や成長の様子に気付くことができるように、野菜を栽培する中で発見したことや成長の様子を、静止画で記録し、保存・蓄積する。また単元の終末で、蓄積された野菜の静止画を時系列で並べることで、野菜の成長と自分との関わりを感じることができるようにするためのICT端末の活用である。

栽培活動においては、児童が発見したことや不思議に思ったことなどを、ICT端末のカメラ機能で記録し、クラウド上に保存して、児童一人一人がICT端末で見られるようにした。また、教師が児童の水やりや虫取りや追肥している様子を静止画で記録し、クラウド上に保存することで、野菜と児童との関わりについて考えられるようにした。

クラウド上の静止画を見て、栽培活動を振り返る

野菜新聞を作成する

小学校・第2学年・生活科・「おいしく育てね わたしのやさい」②

～ICT端末を使って、野菜の成長を振り返る～

【ICT端末の写真撮影機能を使う】



【ICT端末の画面に書き込む】



【静止画を時系列で振り返る】



【ICT端末の活用のメリット】

- 野菜に水をあげたり観察したりする中で、葉の大きさや形の変化の様子や、葉が枯れたり、虫がついていたりするなどの心配な出来事を、短時間に何枚も繰り返し継続的に記録することができる。また、ICT端末の画面に言葉を書き込むことができる。
- 野菜の成長を振り返る際に、児童自身が記録した静止画を時系列で並べることで、変化や成長の様子に気付くことができる。また、それらの静止画をきっかけにして、土が乾いていたので水やりしたことや、実が付いたので追肥したことなどの自分との関わりについても気付くことができる。

【ICT端末の活用についての配慮事項】

- 野菜を見て書くことで、じっくり見たり、葉などを触りながらトゲがあることを見付けたりできることから、ノートなどに書くことと併用するなど、指導のねらい・場面に応じてツールを選択することが大切である。
- 生活科の特質として、実際に野菜を栽培する中で、その成長の様子を見守ったり、関わったりしていくことが必要である。
- ICT端末の特質として、短時間で正確に成長を記録し、集積保存することで、成長や変化の様子を時系列で捉えやすくなる。

○ 活用したソフトや機能：写真撮影機能，学習支援ソフト（ファイル共有機能）